

# 原水協活動 FAX News

発行: 原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール [antiatom55@hotmail.com](mailto:antiatom55@hotmail.com) 2008年4月14日 No.44

## 50周年平和行進まであと23日！草の根からの運動で大きく成功させよう

国民平和大行進が間近にせまってきました。今年が行進は、50周年記念。各地、各団体が創意をこらして全自治体の網の目行進など大きく成功させようと準備がつよめられています。すでに各界からも賛同のメッセージが次々よせられています。次の2名のメッセージを紹介します。

井上ひさし(作家・劇作家)

記憶せよ、抗議せよ、そして生き延びよ...が、私の唯一のモットーです。

米倉齊加年(俳優)

平和とは人間が生きること

核兵器は人間の生をはばむ

各地の平和行進の取り組みをお寄せください。

ビキニ被災  
ミュージアム

## 政府として全面的に支援する

駐日マーシャル  
全権大使



元国連職員がディレクターを務めるクロスカルチャー4月例会が4月12日、早稲田奉仕園で行われ、駐日マーシャル諸島共和国全権大使のフィリップ・カブアさん(写真左)と元第五福竜丸乗組員の大石又七さんが「核兵器のない世界に向けて：マーシャル諸島の体験」をテーマにスピーチを行いました。

フィリップ大使は、「核兵器をなくすことを共通の目的として生きていくことを期待する」とのべ、アメリカがどのようにしてマーシャル諸島の人々に核実験を認めさせたのか、実験後、ヒバクによる健康被害や自然破壊、住人の暮らしや文化の崩壊、さらに心の傷などのさまざまな被害に対して取っている態度などについて話しました。

大石さんは冒頭、日本はアメリカの「核の傘」に入り核兵器を容認しているが、「私は絶対に認めてはいけないという立場だ」とのべ、ビキニ被災体験を語りました。

質疑応答で、マーシャルへのビキニ被災を後世に伝えるミュージアム建設について、フィリップ大使は「4つの環礁のみなさんがグループになって活動していることを知っているし、先日第五福竜丸展示館に行ってきた。政府として全面的に支援したい」と話されました。

## 世界大会への取り組み交流し、活動方針決める 被爆の実態を伝える札幌青年の会「FoRP」



被爆の実態を伝える札幌青年の会「FoRP」は4月10日、札幌市内で会議を行い原水爆禁止世界大会へ向けての取り組みと、FoRPの活動方針作りについて話し合いました。

3・1ビキニデーに参加した韓国人留学生のイ・ミーヨンさんも出席した会議では、世界大会の説明と昨年の報告・感想を交流し、大会スケジュールを話し合いました。感想の中では「昨年は長崎の暑さの中で原爆が落とされ、多くの人々が亡くなっていったことなど、現地に行かないとわからないことがある」という思いが共通して出され、大会へ参加する意義、自分の足で現地立つ意味が参加者の中で再確認されました。4月6日に行われた「6・9行動」の報告後、「FoRP」の活動方針が議論され、札幌圏を中心に被爆体験の聞き取り活動を行う核兵器、被爆の問題を多くの青年に伝えるためにブログを活用し、全国の青年にアピールしていく核兵器廃絶、被爆者援護・連帯のための平和学習・活動等をおこなう原水爆禁止世界大会への学生の派遣を推進することが決まりました。今後、「FoRP」はこの方針を基に様々な活動を展開していくことにしています。

「FoRP」ブログ <http://forp.blog95.fc2.com/>